

平成 26 年度 第 2 回 人生二毛作推進県民会議 意見交換概要

開催日時 平成 26 年 10 月 21 日 (火) 14 : 00 ~ 16 : 00

開催会場 長野県庁 議会棟 4 階 404 ・ 405 号会議室

【テーマ別の意見交換の概要】

(1) 創業・起業

◆「ながの創業サポートオフィス」との連携

- 中小企業振興センターに「ながの創業サポートオフィス」という窓口がある。ここでは、地域振興的な取組についても、ビジネスとして、収益性といったところで成り立つかどうかについても、専門家からアドバイスを受けることができる。シニアの方から相談があった場合は、コーディネーターから「サポートオフィス」へ取り次ぎや連携を行うと、創業の取組も増えていくのではないかな。

◆創業・起業に関する「学びの場」

- 中小企業振興センター主催で、シニア向けの創業セミナーを開催したが、なかなか人が集まらなかったという課題もある。
- 長寿社会開発センターでもシニアの世代の人たちが起業・創業などの学習をする「学びの場」をつくらうという計画がある。
- サポートオフィスや長寿社会開発センター単独でやるのではなく、連携したり、講師の交換をしたりしながら、進めていくこともひとつの方法ではないかな。

(2) シニア大学や市町村、関係機関とコーディネーターとの連携

◆市町村との連携

- 様々な場面で、市町村の関係部局と連携しながらやっていくことが大切。

◆シニア大学との連携

- シニア大学とコーディネーターとの情報共有に力を入れている
- シニア大学（長野学部）では、社会参加の講座を増やした。シニア大学は圏域単位で行われるというメリットがあるので、（長野学部内で）千曲市につないだり、須坂市につないだりと市町村圏域を超えたマッチングができてきている。

◆関係機関との連携

- 高齢者支援というところでは、市町村や社協、地域包括支援センターと連携できるようになった。
- 諏訪地域や長野地域で関係機関と連携しやすい分野のひとつは「観光」。「知識」や「経験」、「おもてなし」を活かすといった視点からシニアの出番が多くある。
- シニアの関心ごとと活動が求められる場とのニーズが上手くマッチすれば、シニアの社会参加が見えてくる。

(3) 学校支援

- 学校自体がボランティアの皆さんと上手く連携しているという島内小学校の例のようになるには、学校と地域の皆さんとの関係をどういう風にしていくか考えることが重要。学校と地域の双方で研究して、気安く学校へ顔を出せるようになれば、良い関係ができるのではないかな。
- 島内小学校の例など、他校や他地域へも「こういう風にしてここまでいった」と取組の過程も紹介して、いいことをまねしていくべき。
- 農村地区は冬が長いので、農閑期における信州型コミュニティスクールへのシニアの参加について、何かの形でつなげていければよいのではないかな。
- 学校によって取組に差があるのが課題だと思うが、教育事務所から他の学校、地域へ情報発信していくというルートができてきている。教育事務所の担当者が情報収集し、いろんなパターンが取組があることを他の学校に発信しており、信州型コミュニティスクールに取り組む学校も増えてきている。

(4) 情報発信・情報共有

◆活動事例についての情報発信や情報共有

- 地域包括ケアの中で、要介護状態になるよりも元気な高齢者をつくっていきこうということで、一次予防の人を活用して地域でどんなことをやっていくか、地域のために自分たちがどんなことで役立っていくことで元気になれるかについて議論している。どんな風にしていけば良いか、なかなかアイデアが出てこないのが現状。
- 一次予防の元気教室において、こんな取組をしている高齢者の方がいると紹介してもらえると、今後地域の包括に置かれるコーディネーター（「生活支援コーディネーター」）との連携につながるのではないかな。
- シニア大学でも、地域に帰ってコーディネートができるような人をどう育てるかという方向に向かっている。
- シニア大学での意識啓発により、すぐ動き始める団塊世代の人たちがいる。地域活動の分野では、市町村社協が強いので、社協へつないできちんと自分の地域で活動者となれるようにマッチングしていきたい。
- かわら版の先進事例・好事例を参考に組み組めるものについては、検討し取り組んでいきたい。色々な情報を集めて、その中から練り直していく中で、情報がほしいと感じた。
- 同業者だけではなく異業種が集まって、課題となっていることなどについて情報を出し合うこと、どこでどういうことが行われているかを関係者で共有することがとても大事。
- 長野市では、ボランティアや NPO、企業、行政が入っている会議が市民団体主催で毎月第 3 水曜日に開催されており、異業種、個人、団体も参加し、情報発信をしてつながる場となっている。また、松本もプラチナサロンでシニア層が集まって色々な情報交換をしているし、飯田でも行われている。

(5) 高齢者の人材バンク整備

- 団体ごとに目的もあったり、目指すところもあったりして、その団体を中心に活動することが、ひとつのバンクになっているかもしれないが、マッチングのためには、こういう希望や能力があるという情報の整備が必要ではないか。
- 希望者や必要とする人を登録するシステムはあるが、ただ登録するだけでは動かない。どう動かすかが大きな問題。コーディネーターの力量やイマジネーション力にもよる。
- 就労はハローワークがデータをしっかり持っているが、社会活動や社会貢献という点では、市町村社協やボランティアセンターにつなげ、その先には、それぞれ担当者がいて、そこでのやりとりで対応できる、そうした仕組みをつくるのが大切。
- 登録制度はあるが、上手く機能しているかが問題。情報の整備は大前提だが、それをどう活用していくかが大事。
- 社協でも、県内のネットワークというものはまだできていないので、検討材料になる。市町村単位でのボランティアセンターにそれぞれ情報は入ってくるが、個々の市町村の連携はなかなかないのが現状。

(6) シニア層の新たな分野での活躍

◆就労分野での活躍

- キーワードで「信州型コミュニティスクール」があったが、次のキーワードとして考えられるのが「中間的就労の場」。一般的な就労に移れない「中間的な就労」、その部分の機能をどうこれから各地に作り出していくのか。シニアの寄り添い型のサポートのようなものを取り上げてもらえればありがたい。
- 企業OBの方々が能力を持っている方と欲しいところとのマッチングの機会がない。バンクのようなものがあれば、参加したいという人と欲しいという人がマッチングできるのではないか。
- ハローワークにお越しいただく65歳以上の方は、本就業以外の道に活路を探している方が多いことも事実。次の就労のための講習を38講座開講しており、受講率は高いが、就業に結びついたかどうかは明確ではない。
- 諏訪地域では今、パソコンの初級中級くらいの講座を開いているが、次の就労に結びつくことはなかなか難しい。登録しておけば、声がかかってくるというような科目が開けていければ良い。

◆農業分野での活躍

- 農繁期や収穫期とか野菜の苗の定植期など、農作業が集中する時期につらくなって、規模を縮小する農家が増えてきている。一部のJAでは無料の職業紹介も始めている。農作業したいという方とのマッチングをうまくできればよい。
- 農業分野も人材不足。農業で起業したい方たちは相談にきてもらえるが、シニアの方たちと農業との接点というものが県の農政部門でも見いだせていない。
- シニアの皆さんは経験や知識もあると思う。農業だけで食べていかななくても、地域貢献的なかたちで能力を活かしながら、農業の部分でも活躍していただけると農家のバックアップにもなるし、地域の農地を守るという部分で活躍していただけるのではないか。

◆地域での活躍

- 須坂市の観光ガイドツアーで、シルバーの方がまちのつくりとか歴史を交えて説明してくれていた。1日 3,000 円くらいの収入を得てガイドをしているようであるが、なり手が少ない、減ってきているという悩みもあるのが現状。その土地に住んでいて、歴史、自分のエピソードを交えたガイドができる方が増えていけばよいと感じている。
- 中山間地とか、地域や社会をきちんと構成していかなければいけない時代。地域の催しを企画する人は、地域の方とともに広めないといけない。コーディネーターの方の力を借りて、シニアの方に担い手として活躍いただき、地域づくりにつながっていけば、とてもありがたい。
- ねりんピックの地元グループの発表で、小諸高校の音楽科があるので、一緒にできたらいいと考えたことから、色々な方が「じゃあうちもうちも」とだんだんと広がっていった。小さな種だが、コーディネーターとして広めていきたい。
- 色々なネットワークにコーディネーターの方が接続していただいたということが段々見えてきている。更に一步踏み込んだ活動をしていただきたい。

(7) 生涯現役社会の仕組みづくりなど

- 生涯現役社会とは、誰もが希望すれば生涯にわたって働き続けることができる社会、生きがいをもって社会貢献や文化活動をすることができる社会であると考えている。
- コーディネーターが今までの積み上げたノウハウというものを上手く他の地域でも横展開してもらい、つないでもらうと上手くマッチングができるのでは。
- 最初は個々のマッチングから入る可能性はあるが、市町村圏域を超えて連携される事例が進んでいくことになれば、更に県の他地域や県全体でもそういった連携の仕方が進み、コーディネーターが一層二毛作の仕組みづくりに注力できるようになるのではないかと。

(8) 意見交換を受けて（シニア活動推進コーディネーターより）

- それぞれの団体の皆さんの活動や新たな発想、意見を伺って、具体的に何か進められるものがないか、連携をしていきたい。
- 元気だから働くのではなく、働くから元気だというような発想の転換で、社会をつくっていかなくてはいけない。
- ホワイトカラーの方の再就職は難しいところがあると思うので、例えば農業とか色々な分野が関わっていくようなコーディネートをやりたい。
- 今後市町村に設置される予定の生活支援コーディネーターとの連携も考えていきたい。